

2021年2月21日

「はじめてのキリスト教」説教要約

## 彼の言うことを聞け

(マタイ17:1-13)

### 一、主イエスの正体

1節を見てまいります。〈それから六日目に、イエスはペテロとヤコブとその兄弟ヨハネだけを連れて、高い山に登られた。〉とあります。何を起点にして〈六日目〉なのでしょう。その前に書かれていることです。すなわちペテロがイエスに、弟子たちを代表して「あなたは生ける神の子キリストです」と語り、〈マタイ16:21そのときからイエスは、ご自分がエルサレムに行つて、長老たち、祭司長たち、律法学者たちから多くの苦しみを受け、殺され、三日目によみがえらなければならぬことを、弟子たちに示し始められた。〉という出来事です。マルコム力も同じです。では、山に登るまでの六日間とは何だったのでしょうか。ユダヤ人であるなら、すぐにある箇所を思い起こしたことでありましょう。それは出エジプト記24章です。そこから類推しますに、六日間は一行が神と出会つたための準備期間だったということになります。2節をご覧ください。〈すると、弟子たちの目の前でその御姿が変わつた。顔は大陽のように輝き、衣は光のように白くなつた。〉とあります。後にペテロは、その

時の出来事について回想して語っています(IIペテロ1:16-18)。

### 二、聖書の中心

3節を見てまいります。〈そして、見よ、モーセとエリヤが彼らの前に現れて、イエスと語り合つていた。〉とあります。旧約の人々にとつて、モーセとエリヤは特別な存在でした。自分たちの信仰を代表しているからです。モーセはイスラエルの民をエジプトの奴隷状態から救うために立てられた器でした。そしてもう一つたいせつなのは、律法という、法と教えを授かり、イスラエルにもたらした器でした。そういうわけで、モーセと言えは律法、律法と言えは旧約聖書の中心でした。次にエリヤですが、エリヤは預言者を代表する預言者でした。預言者の役割は、律法によつてもたらされた神の御思いにイスラエルが鈍感になつたとき、その時代における御意思を御霊によつて語ることにした。が、もう一つの意味もあります。預言者は、律法に次ぐ旧約聖書の第二区分を指しました。すなわち、ヨシヤ記から十二小預言者までです。主イエスは、モーセ、エリヤと何を語り合つたのでしょうか。考えられることは、御自身の受難について、相談していただくことです。すなわち聖書に照らして、自分が進むべき道が神の御意思に適しているか、です。ところが、ペテロは幻を

見たことで、舞い上がつてしまいました。4節です。〈そこでペテロがイエスに言った。「主よ、私たちがここにいることはすばらしいことです。よろしければ、私がここに幕屋を二つ造ります。あなたのために一つ、モーセのために一つ、エリヤのために一つ。〉と。幕屋とは、かつてモーセの時代に設営された会見の幕屋を思い描いたらよろしいです。ペテロは、モーセに聞き、すなわち律法に聞き、エリヤに聞き、すなわち預言者に聞き、生ける神の子キリストに聞くというイメージを思い描いたのではないのでしょうか。すると、神による取り扱ひがありました。5節です。〈彼がまだ話している間に、見よ、光り輝く雲が彼らをおおつた。すると見よ、雲の中から「これはわたしの愛する子。わたしはこれを喜ぶ。彼の言うことを聞け」という声がした。〉と。ペテロたちには、ここで語つておられる方が神であることが分かりました。6節に、次のように書かれているからです。〈弟子たちはこれを聞いて、ひれ伏した。そして非常に恐れた。〉と。そして、7節、8節です。〈するとイエスが近づいて彼らに触れ、起きなさい。恐れることはない」と言われた。彼らが目を上げると、イエス一人のほかには、だれも見えなかつた。〉とあります。私たちはここから何を受け取つたら良いのでしょうか。それは、「これはわたしの愛する子。わたしは

これを喜ぶ。彼の言うことを聞け」です。聖書の中心はイエス・キリストの福音です。イエス時代の聖書は、律法(トラー)、預言者、諸書から成つていました。今日の旧約聖書、プラス諸々でした。まだ、新約聖書は存在していませんでした。聖書の中心がイエス・キリストであるとは、復活された主イエス・キリストがエマオに向かつていた一人の弟子に語られたことばにも記されています(ルカ24:25-27)。ですから、主からのメッセージははっきりしています。「彼の言うことを聞け」です。

### 三、信仰とは?

9節をご覧ください。〈彼らが山を下るとき、イエスは彼らに命じられた。「あなたがたが見たことを、だれにも話してはいけません。人の子が死人の中からよみがえるまでは。〉とあります。なぜ、主イエスはこのようなことを語られたのでしょうか。理由ははっきりしています。主イエスが教えられた信仰は、こういうものだったからです。すなわち、「キリストは、聖書に書いてあるとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、また、葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおりに、三日目によみがえられた」と信することです(1コリント15:3-4)。キリストの十字架と復活を言い表さない「信仰」は、信仰ではありません。